資料３

令和３年度第２次燕市食育推進計画の進捗状況

健康づくり課

第2次燕市食育推進計画指標項目一覧

計画期間：平成29年度～令和4年度

進捗基準：◎目標値を達成　○概ね達成(80%以上)　△未達成だが基準値より改善　▼基準値未満

【目標達成率（%）＝（R2年度調査時実績値－基準値）÷（R４年度目標値－基準値）】

*がついている指標項目は次期計画策定時に調査予定

基本目標

指標項目	対象	第1次計画策定時基準値	第2次計画策定時基準値	R元年度調査時実績値	R2年度調査時実績値	R3年度調査時実績値	R4年度目標値	評価
1 健康寿命の延伸を目指し、望ましい食習慣を実践する								
毎食、主食・主菜・副菜をそろえて食事をしている人の増加*	小中学生	—	37.9% (H27)	—	—	—	60%以上	—
	保護者	—	27.2% (H27)	—	—	—	60%以上	—
ご飯を1日2食以上食べる人の増加*	小中学生	98.3% (H22)	96.8% (H27)	—	—	—	100%	—
	保護者	97.0% (H22)	93.5% (H27)	—	—	—	100%	—
野菜を毎食食べる人の増加*	小中学生	38.6% (H22)	38.6% (H27)	—	—	—	60%以上	—
	保護者	29.1% (H22)	31.2% (H27)	—	—	—	60%以上	—
朝食を毎日食べる人の増加*	小中学生	88.9% (H22)	89.6% (H27)	—	—	—	100%	—
	保護者	92.7% (H22)	87.6% (H27)	—	—	—	100%	—
よく噛んで味わって食べている人の増加*	小中学生	—	79.7% (H27)	—	—	—	90%以上	—
	保護者	—	67.7% (H27)	—	—	—	80%以上	—
減塩に心がけている人の増加*	保護者	—	52.7% (H27)	—	—	—	70%以上	—
	成人	—	45.8% (H28)	—	—	46.1%	70%以上	△
メタボリックシンドローム該当者、予備群者割合の減少		—	30.6% (H27)	30.8% (H30)	31.5% (H31)	31.5% (R2)	26.0%以下	▼
就寝前の2時間以内に夕食をとることが週3回以上ある人の減少		—	14.1% (H27)	14.7% (H30)	14.6% (H31)	18.0% (R2)	13.0%以下	▼
朝食を抜くことが週3回以上ある人の減少		—	5.4% (H27)	6.3% (H30)	6.5% (H31)	6.4% (R2)	5.2%以下	▼
2 食を通じたコミュニケーションと食への感謝の気持ちを育む								
家族そろって食事をする人の増加*	小中学生	59.3% (H22)	74.6% (H27)	—	—	—	80%以上	—
	保護者	75.6% (H22)	77.1% (H27)	—	—	—	80%以上	—
食事がおいしい・楽しいと感じる人の増加*	小中学生	67.9% (H22)	74.2% (H27)	—	—	—	80%以上	—
	保護者	68.8% (H22)	70.2% (H27)	—	—	—	80%以上	—
「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をする人の増加* 【毎回・時々含む】	小中学生	92.5% (H22)	90.4% (H27)	—	—	—	100%	—
	保護者	88.7% (H22)	87.3% (H27)	—	—	—	100%	—

基本目標

指標項目	対象	第1次計画策定時値	第2次計画策定時基準値	R元年度調査時実績値	R2年度調査時実績値	R3年度調査時実績値	R4年度目標値	評価
3 食に関する様々な体験を通じ、燕市の食文化を次世代へ伝承する								
燕市の郷土料理を知っている人の増加*【１つ以上知っている】	小中学生	94.3%(H22)	95.3%(H27)	—	—	—	100%	—
	保護者	98.1%(H22)	97.5%(H27)	—	—	—	100%	—
食事を作る手伝いをする子どもの増加*	小中学生	37.0%(H22)	26.2%(H27)	—	—	—	50%以上	—
農作物を育てたり収穫する体験のある子どもの増加*	小中学生	64.2%(H22)	63.7%(H27)	—	—	—	70%以上	—
燕市の農作物で特産品を知っている子どもの増加*【１つ以上知っている】	小中学生	80.7%(H22)	96.3%(H27)	—	—	—	100%	—
4 食の安全と地元産農作物への理解を深め、地産地消を推進する								
食の安全性に関心を持つ人の増加*	保護者	57.4%(H22)	64.4%(H27)	—	—	—	80%以上	—
食品の表示を確認して購入する人の増加*	保護者	99.3%(H22)	98.3%(H27)	—	—	—	100%	—
燕市産・新潟県産を意識して食品を購入する人の増加*	保護者	70.7%(H22)	72.8%(H27)	—	—	—	80%以上	—

燕市食育推進計画　活動指標各課実施状況（令和元～3年度）

No.	活動指標名	単位	R1年度	R2年度	R3年度	R3年度評価 ／担当課
1	つばめ食育だより掲示施設数	施設	92	207	211	A／健康づくり課
2	つばめ食探求事業参加人数	人	－	－	195	A／健康づくり課
3	食育月間における食育啓発普及人数	人	－	4,800	4,800	A／健康づくり課
4	食生活改善推進委員活動回数 （R1は集会活動回数、R2,3は個別活動回数）	回	84	1,320	1,320	A／健康づくり課
5	3歳児の野菜を毎食食べる割合	%	52.7	53.6	45.9	B／健康づくり課
6	３歳児むし歯有病者率	%	7.4	7.2	6.1	A／健康づくり課
7	生活習慣改善事業体重腹囲減少割合	%	75.0	74.0	57.0	B／健康づくり課
8	フレイル予防に関する情報発信回数	回	13	15	8	B／健康づくり課
9	幼保こども園給食喫食量	%	98.8	98.9	98.5	B／子育て支援課
10	キッズ健康講座参加人数	人	47	17	82	A／子育て支援課
11	児童館等での食育活動回数	回	61	13	18	A／子育て支援課
12	食育教材使用学校食育啓発回数	回	36	36	22	B／学校教育課
13	つばめキッズファーム事業満足度	%	ー	89.6	92.8	B／学校教育課
14	学校給食地産地消率	%	36	36	39	A／学校教育課
15	要支援者通所型健康教室参加者数	人	47	44	52	A／長寿福祉課
16	高齢者配食サービス利用者数	人	90	106	117	A／長寿福祉課
17	燕市農業まつり来場者数 （R2,3は「つばめ食べて応援キャンペーン」）	人	10,200	17,675	20,315	A／農政課
18	燕市産農産物PR調理動画公開数	本	ー	ー	5	A／農政課
19	生ごみ処理機設置補助金額	千円	51	100	100	A／生活環境課
20	食品ロス削減計画策定	ー	ー	否	策定	A／生活環境課
21	子どもエコ料理教室参加者数	人	32	0	0	C／社会教育課
22	家庭教育推進事業参加親子数	組	44	0	16	B／社会教育課
23	ワークライフバランス理解度	%	92	95.2	100	A／地域振興課
24	道の駅国上おにぎり提供食数	食	5,185	3,531	4,768	A／観光振興課
25	アレルギー対応非常食備蓄数	食	1,440	2,160	2,880	B／防災課
26	防災出前講座実施回数	回	21	18	15	B／防災課
27	女性防災リーダー講座受講者数	人	37	37	19	B／防災課

資料３

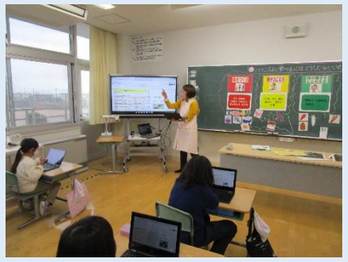
燕市の食育「食を通して心のつながりと元気なからだを育てます」

燕市の食育

基本目標1　健康寿命の延伸を目指し、望ましい食習慣を実践する

オンライン離乳食相談会

食育イベント「チャレンジ！食育」


児童生徒への食育

働き世代への食育啓発

食育普及食推かかし

健康教室での口腔ケア指導

防災講座より缶コンロ

基本目標2　食を通じたコミュニケーションと食への感謝の気持ちをはぐくむ

食育活動から展開する家庭教育講座

保育園でのキッズ健康講座

図書館 食育の本コーナー

元気磨きたい 男のチューボーPJ

食品ロス削減推進計画策定

男女共同参画だより

児童館での食育 三色バランス隊

けんこうづくりチャレンジ企画 ベジ足し

つばめキッズファーム事業

こどもの森での食育啓発

栽培したサツマイモを使って調理

越後つばめの天神講

基本目標3　食に関する様々な体験を通じ、燕市の食文化を次世代へ伝承する

旬の農産物調理動画配信

つばめ"食べて"応援キャンペーン

つばめ食探求事業

道の駅国上にて販売
燕市産米おにぎり

食育動画

学校給食地産地消推進

食物アレルギー研修会

基本目標4　食の安全と地元産農作物への理解を深め、地産地消を推進する

令和3年度　燕市食育推進計画　実施状況・評価票

【評価の基準及び評価の表記】

事業の評価は、指標に対する達成率及び事業の実施状況で評価ポイントの取組を行った項目数により、下記基準表により、成果（効果）を得られたか、3段階で表記するものとする。

【評価基準算出表】

評価ポイントの取組を行った項目数	目標値	
	達成	未達成
3	A	B
1～2	B	B
0	C	C

A　：実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている
B　：食育の視点を取り入れ事業を実施している
C　：食育の視点で事業を実施できなかった

No.1

健康づくり課　健康チーム

事業名	つばめ食育だよりでの食育の情報提供						
実施時期	毎月19日			実施対象	市民、職員		
内容	毎月19日が食育の日であることのPRと食育情報・健康情報を燕市の状況と合わせて発信する。幼保子ども園、小中学校、公民館、体育館等の市内公共施設及び市内スーパー等に掲示を依頼。燕市ホームページ、公式LINE、子育てアプリで配信。計画の目標達成に向け、食育推進の各種取り組みを発信するため、各課と連携協力して食育だよりを作成する。掲示施設の拡大とホームページへのアクセス数増加のための取組みを行う。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R3年	目標値の根拠
		つばめ食育だより掲示施設数	掲示施設数	施設	目標	208	令和2年度の実績207施設をもとに算出
					実績	211	
					達成率	101%	
事業の実施状況		評価のポイント		実施内容を具体的に記入			
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか		令和3年2月に作成された12個の食育ピクトグラムを今年度から食育だよりに取り入れた。年間通して全て使用することで、満遍ないテーマ選定につながり、多面的な食育の視点を持って企画した。			
	2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか		掲示施設に加えて、今年度から新たに燕市公式LINEと公式Twitterでの配信を開始した。保険会社3社を通じた市民への健康情報の発信に、つばめ食育だよりの活用が始まった。			
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか		燕市の現状や課題、取組状況を掲載し、市独自の食育情報となるよう作成した。食育に関する関係各省の動向や県の取組に注視し、タイムリーな内容発信に努めた。			
成果及び今後の課題	幼保園の統廃合や子育て支援センター閉鎖で4施設が減、スーパーや農産物直売所を5店舗追加した。保険会社との協定締結により、健康情報発信として令和3年12月から食育だよりが活用された。内容の理解と実践、周囲への普及啓発のため食生活改善推進委員の活動時に対象者へ配付説明をした。今後もより多くの市民に伝達できるよう、発信先の拡大と効果的な誌面作成に取り組んでいく。						
担当課による評価結果	A　：実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている						

No.2

健康づくり課　健康チーム

事業名	つばめ食探求事業						
実施時期	通年			実施対象	市内在住、在勤者		
内容	市内農産物の収穫体験と同食材を使用したお店での食事を組み合わせた企画を季節ごとに年4回開催。食育への関心が希薄な働き世代へアプローチするため燕西蒲勤労者福祉サービスセンターと協働で企画し、タンポポニュースに掲載して周知を行う。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R3年	目標値の根拠
		つばめ食探求事業参加人数	合計参加人数	人	目標	120	年4回各30名の参加を目標として算出
					実績	195	
					達成率	163%	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	地元産農産物への理解や地産地消の推進、食の体験活動充実を目的に、市内の農家を訪れる収穫体験を企画した。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	働き世代の参加増につなげるため、休日にかつ数日間設定した。また同農産物を使用した飲食店での食事を組み合わせたことも魅力につながったと考えられる。
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	現地で農家の方に野菜の品種や特徴、収穫方法やおすすめの食べ方を説明していただくことで、より農産物への関心や愛着がわいている。

成果及び今後の課題	四季に応じて、きゅうり・トマト・さつまいも収穫を実施し3回の企画で146名の参加実績があった。3月にはしいたけ収穫を予定している。ターゲットにした働き世代や親子に多く参加いただき、人気の企画となっている。本事業についてはつばめ食育だより9月19日号に掲載した。ある程度の受け入れ人数や数日実施などの条件に協力いただける農家を探すことが課題である。
担当課による評価結果	Ａ　:実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている

No.3

健康づくり課　健康チーム

事業名	食育月間における食育啓発事業						
実施時期	6月			実施対象	市内在住、在勤者		
内容	関係課から協力をいただき、公共施設や農産物直売所等で食育啓発ティッシュを配布する。 野菜摂取のための食育リーフレットを作成し、食生活改善推進委員により配布する。 こどもの森で食育イベントを6月19.20日に実施する。図書館では食育の本コーナーを設置する。 食育月間での取組について、ホームページ・公式LINE・Twitterで発信する。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R3年	目標値の根拠
		食育啓発普及人数	食育啓発ティッシュ配布個数	個	目標	4,800	昨年度実績より算出
					実績	4,800	
					達成率	100%	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	食育推進について重点的かつ効果的に一層の浸透を図るため、6月の食育月間でのイベントや事業実施を関係機関に打診した。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	野菜摂取を勧める食育啓発ティッシュを作成し、各課関連施設での配布を行うことで多方面から幅広い食育周知につながった。
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	こどもの森では、お米クイズ、野菜の育ちボード、お買い物ごっこ、道具選び、3色栄養バランス、栽培体験、工作など親子で楽しめる体験型の食育イベントを開催した。

成果及び今後の課題	こどもの森に協力いただき、イベント開催日には2日間合計 179名の参加があった他、食育月間期間中はいつでも食育工作の作成可能、読み聞かせなど他のイベントのテーマを「食育」にし、重点的に食育啓発を実施した。図書館での食育の本コーナー設置に加え、電子図書館で食育の本特集を組み紹介いただいた。今後も関係機関と協力し、食育月間での普及を広めていく。
担当課による評価結果	Ａ　:実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている

No.4

健康づくり課　健康チーム

事業名	食生活改善推進委員の活動支援と養成						
実施時期	通年			実施対象	燕市食生活改善推進委員		
内容	健康な食生活の習慣化と食文化伝承に向け、地域住民に密着した健康づくり活動を推進する委員への活動支援と養成。食育指導媒体を作成し、園児や児童、地域に向けた活動が多く展開されている。燕市の健康課題解決、他課からの依頼事業に合わせ、関係組織や団体と連携協力を図り活動を実施する。感染リスクを伴わない活動方法を考える。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R3年	目標値の根拠
		食生活改善推進委員協議会活動数	食生活改善推進委員の個別による活動総回数	回	目標	1,320	食生活改善推進委員1名につき12回実施（会員110名）
					実績	1,320	
					達成率	100%	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	燕市の健康課題である肥満や糖尿病等生活習慣病予防のため、野菜不足を補う「ベジ足し」パンフレットを昨年に続き第2弾を作成し各世代への配布を計画した。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	ベジ足しでは、特に野菜不足等課題の多い若い年代に抵抗なく取り組んでもらえるように簡単な野菜料理を集めた。働き世代への啓発として企業へ訪問し昼休憩時に普及活動を行った。
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	今年度は調理実習や試食は避け、減塩商品や材料一品提供などで関心を高めるエ夫をした。家庭でベジ足しレシピ調理を行うチャレンジ企画については中学生にも範囲を広げた。

成果及び今後の課題	ベジ足しパンフレットを活用し、会員が個別で地域住民に対して啓発、または高齢者サロンや学校、企業に出向いた活動を主に展開した。パンフレットは11,000部発行した。新たな取組として、夏にはベジ足しを普及するため「食推かかし」を作成し、小池地区のイベントに参加した。引き続き新たな視点での活動方法を考えていく。
担当課による評価結果	Ａ　:実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている

No.5

健康づくり課　母子チーム

事業名	母子保健事業【ハッピーベビークラブ、乳幼児健診、予約制育児相談会、小児肥満度調査】						
実施時期	通年			実施対象	妊婦、乳幼児とその保護者		
内容	正しい食の知識や生活習慣、食事を楽しむこと等についての個別指導。 乳幼児健診身体計測値より肥満度の算出、個別指導。 広報や食育だより、ホームページでの食育情報発信。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R3年	目標値の根拠
		3歳児 野菜を毎食たべる割合	3歳児健診ｱﾝｹｰﾄ 野菜を毎食たべる人数/3歳児健診受診者	%	目標	55%以上	野菜を毎食たべる人数/3歳児健診受診者 H30年度　279/564(49.5%) R 1年度　271/575(52.7%) R 2年度　274/530(51.7%)
					実績	45.9%	
					達成率	83%	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	妊娠期・乳幼児期から望ましい食習慣の形成を獲得することを目標とし運営方法を考慮して企画している。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	昨年度同様、健診や教室だけでなく、来所や訪問、電話、オンラインでの個別相談を実施し、コロナ禍でもさまざまな形で相談ができるように工夫している。
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	各年齢に合った発育発達のための適切な食の指導を行うとともに、楽しく共食する体験を通して食べる意欲や心の豊かさを育てるといった食育の視点を取り入れている。

成果及び今後の課題	野菜嫌いの対応だけでなく、保護者が気軽に実施できるレシピの普及も必要である。ベジ足しリーフレットやベジ足し動画を母子事業にも活用させていく。また、妊娠期から夫婦ともに食に関心を持つような事業運営を継続していく。
担当課による評価結果	Ｂ　:食育の視点を取り入れ事業を実施している

No.6

健康づくり課　母子チーム

事業名	歯科健診などでの生涯各期に応じた食育の推進						
実施時期	通年			実施対象	市民		
内容	①妊婦：妊婦歯科健診 ②子ども：幼児健診・幼児歯科健診でのフッ化物歯面塗布、全園や小学校でのフッ化物洗口、虫歯予防教室 ③成人・高齢者：歯周疾患健診（40,50,60,70歳）、長寿歯科健診（76,80歳）、訪問歯科診療、保推・食推活動、笑顔の宅配プロジェクト ④歯っぴーフェア（歯科医師会主催）　⑤かがやきポイント事業：ポイント手帳項目（よくかむ、毎食後歯みがき） ⑥食育だより（1月号）						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R3年	目標値の根拠
		3歳児むし歯有病者率	3歳児むし歯有病者/3歳児健診受診者	%	目標	10%未満	燕市歯科保健計画評価指標
					実績	6.1%	
					達成率	100%	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	歯や口腔の健康と食生活には密接な関係があることから、歯科保健における各世代の目標、各事業における口腔ケアに合わせた食育の推進を取り入れている。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	妊婦教室や幼児健診に合わせた事業の実施や園・学校での取り組みの他、笑顔の宅配プロジェクトや高齢者サロンにてオーラルフレイルの啓発を行った。
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	幼児健診では口腔ケアだけでなく食事内容や間食のとり方について指導を行った。また笑顔の宅配プロジェクトや高齢者サロンにおいてはお口の体操の他、フレイル予防の食事の普及を行うなど、各事業において食育の視点を取り入れた。

成果及び今後の課題	3歳児むし歯有病率は今年度も目標値を達成できている。妊婦、子ども世代には食習慣基盤づくりと歯の健康について、成人・高齢者世代には生活習慣病やフレイルと歯の健康を関連させた事業を実施していく。さらに、仕上げ磨きの必要性やフロスや歯間ブラシの使用、定期的な歯科受診についても普及させていく。
担当課による評価結果	Ａ　:実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている

No.7

健康づくり課　成人チーム

事業名	成人保健及び健康づくり事業における食育推進 （特定保健指導・糖尿病予防・骨粗鬆症予防・メタボ予防・職域健診指導・元気磨きたいプロジェクト活動）						
実施時期	通年			実施対象	一般市民		
内容	各種成人保健事業について、個別対応による相談会を開催する。特定健診や職域健診会場など市民へ発信可能な場所で、減塩・肥満予防・糖尿病予防の食事について、媒体やパンフレットを用いて普及啓発を実施。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R3年	目標値の根拠
		生活習慣改善事業参加者改善状況	参加者のうち体重または腹囲が減少した人の割合	%	目標	80%	令和2年度の実績77%をもとに算出
					実績	57%	
					達成率	71%	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	計画的に体重を減らしていくプログラムの中で、食事内容の確認と改善を行った。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	個人のニーズに応じて、面談のほかに書面上のやり取りや電話、メールでの支援を行った。
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	個々の生活に沿った減量の計画を立て、生活と食事の内容を確認し、支援を行った。

成果及び今後の課題	データに変化はなかったものの、食事や生活を見直すきっかけになったとの声があった。しかし、途中で脱落してしまう方もいたため、継続できるような支援づくりが大切と感じた。
担当課による評価結果	Ｂ　:食育の視点を取り入れ事業を実施している

No.8

健康づくり課　成人チーム

事業名	介護予防関連事業における食育推進						
実施時期	通年			実施対象	高齢者		
内容	高齢者に向けて参加者の年代と身体状況を加味し、食に対する興味関心を高め、普段の食生活を振り返りつつ、しっかりと3食バランス良く食べることや、カルシウム・たんぱく質等摂取のすすめを中心に低栄養状態（フレイル）を予防する情報発信を行う。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R3年	目標値の根拠
		フレイル予防に関する情報発信回数	健康教育やメディアを通じた発信等の回数	回	目標	10	過去の実績に基づき算出（R1：13件、R2:15件）
					実績	8	
					達成率	80%	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	地区担当保健師等と相談し、実施時期や参加者のニーズに合った内容で食育教育内容を検討する。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	参加者の年代や人数を考慮し、クイズ、レクリエーション・食育媒体などを組み合わせ、より興味・関心を持ってもらえるような内容を心がけた。
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	感染症予防と免疫力向上の視点も盛り込み、低栄養予防の啓発を行った。引き続き、高齢期の健康課題であるフレイル予防や骨粗しょう症予防に関しても啓発を強化していく。

成果及び今後の課題	感染症対策をしながら健康教育を行い、参加者の関心が高い免疫力向上に絡めて低栄養・フレイル予防の啓発をした。今後も参加者が理解しやすい媒体作成と健康教育を実施していく。
担当課による評価結果	B　：食育の視点を取り入れ事業を実施している

No.9

子育て支援課　総務企画係

事業名	幼稚園・保育園・こども園における給食の提供						
実施時期	通年			実施対象	園児		
内容	・給食の提供を通して、園児へ食事のマナーや食物の知識について食育を実施。 ・食物アレルギー疾患をもつ園児に「食物アレルギー対応食」を提供する。 ・給食だより、給食展示、給食の試食、レシピの提供により給食内容を保護者へ周知する。 ・行事食や伝統食を取り入れて食文化を継承していく。 ・地産地消の推進（吉田地区：地元の生産者から農産物を納品　じゃが芋、玉ねぎ、大根、南瓜、長ねぎなど）						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R3年	目標値の根拠
		喫食量	出席者の摂取量/在籍者の発注量	%	目標	99	令和2年度実績98.8%に基づく
					実績	98.5	
					達成率	99.5%	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	季節にあわせ、旬の食材を取り入れた献立を作成した。また、幼児期から行事食や昔ながらの郷土食に慣れ親しんでもらうよう、のっぺや菊のおひたしなどを取り入れた。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	給食の展示や保護者にレシピの提供をしている。また、給食だよりを通して食に関する情報を提供している。
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	園の給食を通して、食事のマナーを学び、食べ物への興味や知識を高め、人と一緒に食べる喜びを実感できるよう取り組んでいる。

成果及び今後の課題	喫食量は、例年ほぼ変化なく維持されている。これからも、子どもが園の給食に慣れてきた年度の後半に調査を継続する。
担当課による評価結果	B　：食育の視点を取り入れ事業を実施している

No.10

子育て支援課　総務企画係

事業名	キッズ健康講座						
実施時期	年1回			実施対象	園児・保護者・職員		
内容	テーマは「噛むことの大切さ」。園児、保護者、職員を対象によく噛むことでどんな効果があるのかについて食育講座を行う。新型コロナウイルス感染拡大防止に取り組みながら実施する。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R3年	目標値の根拠
		食育講座の参加人数	実施した講座の参加人数	人	目標	60	食育講座実施園の園児、保護者、職員の見込み人数
					実績	82	
					達成率	136.7%	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	よく噛む習慣を幼児期から身に着けてもらうため、よく噛むことの重要性について普及する。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため保育参観時の講座は見合わせ、園児・職員のみの講座を行った。
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	園児が食に興味・関心を持ってくれるように講座だけではなく、野菜クイズなどの動機づけを行った。

成果及び今後の課題	園児が食に興味・関心を持ってくれるように講座だけではなく、野菜クイズなどの動機づけを行った。
担当課による評価結果	Ａ　:実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている

No.11

子育て支援課　総務企画係

事業名	児童館・児童クラブ・子育て支援センターでの食育活動						
実施時期	通年			実施対象	0～18歳までの子ども・保護者		
内容	食物に関する知識を高めるとともに、食物をつくる楽しさやおいしさを体験することで食への興味や関心をもつことができるよう食育活動を実施し、幼児期・児童期からの食べ物の大切さや食への感謝の気持ちを育むことができるよう支援する。昨年まで実施していた児童館・児童クラブでの旬の食材の収穫体験、収穫した食物を使用した調理実習、子育て支援センターでの旬の食材をつかった調理実習、子育てサークルでのお菓子作りを通したママ同士の交流など、新型コロナウイルス感染防止の対策を行ったうえで、食育講座を開催する。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R3年	目標値の根拠
		食育講座の実績回数	各施設での実施回数の合計	回	目標	10	令和2年度実績に基づく
					実績	18	
					達成率	180%	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	野菜・果物の栽培や収穫、食育クイズなど、食に興味を持ってもらえるような講座を企画した。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	児童館等で実施することで、子どもと保護者が参加しやすい環境であった。また、人数制限、参加者同士の距離を取るなど、感染症対策を行いながら開催することができた。
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	食育クイズの講座や野菜の栽培などの体験をとおして、食に興味を持ってもらうことができた。

成果及び今後の課題	実施回数は目標を達成することができた。栽培や収穫といった畑作業は、なかなか経験できない家庭もあると思われるが、食に関する興味を持ってもらうよいきっかけとなったようであった。今後も、感染症対策を行いながら継続して実施していく。
担当課による評価結果	Ａ　:実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている

No.12

学校教育課 学校給食係

事業名	学校給食の提供及び児童生徒への食育						
実施時期	通年			実施対象	市内小中学校の児童生徒及びその保護者等		
内容	①「給食＆食育だより」の発行、ホームページへの掲載 ②「食の指導プラン燕」の策定、食育教材の周知と貸し出し ③毎月１回「減塩愛ディア献立」を実施し、給食だよりや放送を通じて児童生徒及び家庭に減塩について啓発						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R3年	目標値の根拠
		教育委員会が貸し出す食育教材を借用し、学校が主体的に食育に取り組んだ件数	食育教材の借用件数	件	目標	36件	令和2年度実績36件
					実績	22件	
					達成率	61.1%	

事業の実施状況		評価のポイント	実施内容を具体的に記入
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	「食の指導プラン燕」を作成し、各学校へ周知することで食育指導の計画立案に繋げた。また、「給食&食育だより」や給食時の放送を通じて食育の啓発を行った。
	2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	理解を深められるよう学年にあわせた食育教材の周知と貸出を行った。
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	「減塩愛ディア献立」では、減塩のコツを活かした献立を提供し、減塩のポイントを給食時の放送等で伝えることで児童生徒が普段から減塩を意識できるように努めた。

成果及び今後の課題	新型コロナウイルス対策により、給食時の黙食が徹底されていることから、食育活動の機会が減少し、食育教材の貸出件数が少なかったと考えられる。指導しやすいような指導案の作成や、給食を食べながらでも視聴できる食育動画を新たに作成するなど食育教材の見直しを行うことで、食育の機会を増やしていきたい。
担当課による評価結果	Ｂ　:食育の視点を取り入れ事業を実施している

No.13

学校教育課 学校給食係

事業名	つばめキッズファーム事業						
実施時期	4月～12月			実施対象	市内小学校の児童		
内容	市内の小学校15校を対象に子どもたちが学校田や学級園での収穫を体験する。 (1)収穫の喜びや食への興味関心、感謝の気持ちを持てるようになる。 (2)農業や食の環境を学ぶとともに、ふるさとへの愛着と誇りを醸成し、自分の将来設計に役立てる。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R3年	目標値の根拠
		参加児童の満足度調査	15校の満足度の平均	%	目標	93%	令和2年度実績89.6%
					実績	92.8%	
					達成率	99.8%	

事業の実施状況		評価のポイント	実施内容を具体的に記入
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	自分たちの手で農作物を作る体験活動を通じて、食や農業への興味、関心を持てるような計画を各学校で立案した。
	2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	学年に合わせた栽培や収穫の体験活動を実施し、理解を深められるよう努めた。
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	収穫した野菜等を使った調理体験を行うことで、収穫したものを食べる喜びや食の大切さを学ぶことができた。

成果及び今後の課題	R3年度の実績値はR2年度と同値であった。目標値を上回ることはできなかったが、米や野菜を育ててくれる人たちの大変さが分かり感謝の気持ちが持てた、給食や家庭でも残さずに食べようと思ったなどの感想が児童から上がった。新型コロナウイルス感染症対策を講じ、さらに実践的な体験ができるよう検討していきたい。
担当課による評価結果	Ｂ　:食育の視点を取り入れ事業を実施している

No.14

学校教育課 学校給食係

事業名	学校給食における地産地消の推進						
実施時期	通年			実施対象	市内小中学校の児童生徒		
内容	①学校給食において、燕市産野菜の使用を推進 (1)毎月生産者に野菜の使用予定一覧を送り、野菜の納入を働きかける。 (2)給食時間の放送で、生産者名や地区を伝え、食への感謝の念を醸成 ②越後中央農業協同組合から給食用精米を購入 ③西部学校給食センターにおいて、地元企業が製造した給食用物品を展示						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R3年	目標値の根拠
		野菜の地産地消率	燕市産を含む県内産野菜の使用割合	%	目標	36%	令和2年度実績36%
					実績	39%	
					達成率	108%	

事業の実施状況		評価のポイント	実施内容を具体的に記入
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	野菜納入会議等で納入可能な青果物について生産者と話し合い、献立作成にいかした。
	2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	児童生徒だけではなく、保護者にも「給食＆食育だより」を通じて、地産地消や燕市産農作物などの情報発信を行った。
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	地元生産者から納品された青果物を使用した場合、各学校へ、生産者の名前と野菜名を事前に連絡し、給食時の放送等を通じて情報提供した。

成果及び今後の課題	生産者や野菜納入業者の協力により、多くの地場産野菜を使用することができ、食の安心安全にもつながった。また、新たな作物の生産に取り組んでくださる生産者もいるため、今後の給食での使用も検討していきたい。
担当課による評価結果	A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている

No.15

長寿福祉課 地域支援相談チーム

事業名	通所型サービスC「健康教室」						
実施時期	通年。利用回数:18回コース ※分水プラザのみ2クール(5月～、11月～)			実施対象	要支援1・2、総合事業対象者		
内容	●運動指導:理学療法士等による運動(下肢筋力アップのための筋トレなど) ●口腔ケア:口腔清掃指導、唾液腺マッサージ指導 ●栄養指導:「低栄養の予防・バランス食のすすめ」についての講話、食事姿勢の指導(誤嚥性肺炎の予防)、パンフレットを用いて低栄養・脱水予防の指導						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R3年	目標値の根拠
		健康教室参加者数	年間の参加者数	人	目標	60	昨年度の実績に基づき算出(R2:44人)
					実績	52	
					達成率	86.7%	

事業の実施状況		評価のポイント	実施内容を具体的に記入
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	心身の機能維持・向上を目指し、基本チェックリスト該当者や長寿歯科健診受診者(口腔機能低下の人)などを対象に、口腔機能向上プログラムや栄養指導を取り入れている。
	2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	後期高齢者健診で転倒リスクの高い人のうち、介護認定のない人や事業対象者でない人に対して基本チェックリストを実施し、該当した人を対象とした。希望したタイミングで参加できるように、通年で受け入れられる体制にしている。
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	口腔機能向上と低栄養の予防を組み合わせた指導を行っている。

成果及び今後の課題	今年度から対象者がタイムリーにサービスを受けることができるように、事業体制を見直しを行った。 しかし、事業の存在が周囲に広まっていないため、後半の新規参加者が少ない現状にある。 今後は、関係機関や広報等でもPRしていく必要がある。
担当課による評価結果	B :食育の視点を取り入れ事業を実施している

No.16

長寿福祉課 地域支援相談チーム

事業名	高齢者福祉サービス・配食サービス事業		
実施時期	通年 提供日数：週2日以内（1日1食）	実施対象	以下のすべてに該当する人 ●70歳以上の人 ●ひとり暮らし、または世帯全員が高齢者の人 ●世帯の全員が次のいずれかに該当 ①要介護または要支援の人 ②身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳のうちいずれかの交付を受けている人
内容	ひとり暮らしの高齢者などのうち、安否確認が必要で自ら食事を用意することが困難な人に対して、1食300円で食事を提供する。 ※事業の対象に該当しない人についても、民間の配食サービス事業所を紹介している。		

事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R3年	目標値の根拠
		配食サービス利用者数	配食サービスを利用する人の実人数	人	目標	100	過去の実績に基づき算出 （R元：90人、R2：106人） ※3月分の実人数
					実績	117	
					達成率	117%	

事業の実施状況		評価のポイント	実施内容を具体的に記入
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	基本的な栄養バランスが取れるよう主食・主菜・副菜を入れた食事を提供してもらっている。
	2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	事業の対象にならない方には民間の配食サービス事業所を紹介することで利便性を図っている。
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	新規で申し込みされる方が増えており、毎月増加傾向にある。配食サービスを利用することで、バランスの良い食を確保し、低栄養予防につながっていると考える。

成果及び今後の課題	食の確保や栄養バランスの取れた献立を考えることが難しい人でも、安否確認を兼ねて安全・安心な食を確保することができる。また、定期的に配食があることで安定した食習慣を身に付けることができる。今後もサービスを必要とする人が利用しやすい事業の実施に努める。
担当課による評価結果	Ａ　：実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている

No.17

農政課　生産振興係

事業名	つばめ“食べて”応援キャンペーン		
実施時期	8月1日～10月31日（3カ月間）	実施対象	燕市民、近隣住民、観光客、通販購入客
内容	燕市産の農産物に応募シールを貼り、購入した消費者がシールを集めて応募すると抽選で燕市産の農産物や農産加工品が当たるキャンペーン。燕市産農産物のPRや販売促進が主な目的だが、産地が分かり食の安全・安心につながることや、地産地消の推進も目的としている。		

事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R3年	目標値の根拠
		キャンペーンの応募数	応募はがきの枚数	枚	目標	17,675	昨年度の応募枚数
					実績	20,315	
					達成率	115%	

事業の実施状況		評価のポイント	実施内容を具体的に記入
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	農産物に「燕市産」と目立つデザインの応募シールを貼ることで、消費者の地場農産物の意識的な購入・消費や、販売促進・需要拡大につながることを目的とした。
	2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	生鮮品だけでなく農産加工品（漬物やジャム等）も対象商品に加え、幅広い年代やライフステージの消費者が応募できるようにした。また市内全域で参加できるよう、未参加店舗を訪問し参加促進した結果、昨年度よりも多くの農業者・店舗が参加してくれた。
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	今年度は燕市の農産物が豊富な夏から秋にかけて実施し、対象商品を広げ、実施期間を昨年より1カ月長く設定した。また賞品にも地元農産物や農産加工品を採用し、地場品の認知度アップや地産地消を促した。

成果及び今後の課題	参加農業者・店舗数、応募枚数とも前年度を超えたことから、より広く実施することができた。今回が2回目の実施となり、参加者・消費者の声から、このキャンペーンがある程度浸透してきていることを感じる。応募者（消費者）の年代が50代から70代で7割以上を占めるため、もっと若い世代に地場農産物を消費・応募してもらう工夫が必要である。
担当課による評価結果	Ａ　：実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている

No.18

農政課　生産振興係

事業名	園芸作物産地化推進事業						
実施時期	通年			実施対象	市民		
内容	燕市産農産物のPRのため、燕市農村地域生活アドバイザー連絡会の協力のもと地元産の旬の農産物をピックアップし、調理動画を公開。動画例：もとまちきゅうりを使った漬物レシピ、えだまめのおいしい茹で方、など。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R3年	目標値の根拠
		公開された動画の数	公開予定数	本	目標	5	動画作成計画より
					実績	5	
					達成率	100%	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	燕市産の野菜をピックアップし、農家ならではの料理を紹介できるよう企画した。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	誰でも調理できるよう、簡単なメニューをピックアップした。
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	動画の作成にあたり、主役の食材が燕市産であることを強調し、燕市の農産物について知ってもらえるような内容にした。

成果及び今後の課題	今年度から動画媒体にて燕市農産物のPRを行ったが、SNSを通じて拡散するなどある程度周知が図られたのではないかと思う。 来年度は再生回数に着目するなど実績に重点を置いて作成・PRしていきたい。
担当課による評価結果	Ａ　:実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている

No.19

生活環境課 環境政策係

事業名	生ごみ処理器（機）設置補助金						
実施時期	通年			実施対象	市内に住所を有する者		
内容	市内の各世帯から排出される生ごみの減量化、焼却の効率化及び堆肥としての資源化を図ることを目的として、生ごみ処理機の普及促進を図る。 そのため、市内に住所を有する者で、生ごみ処理機を販売する市内に本社または営業所を有する業者から、生ごみ処理機を購入し設置する者に対して補助を行う。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R3年	目標値の根拠
		生ごみ処理機設置補助金額	交付実績	千円	目標	100	予算額の100% （R2年度執行率100%であるため、またR3.4月時点で目標達成）
					実績	100	
					達成率	100%	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	食の循環や環境を意識した食育の推進を推奨するため、生ごみ処理機は、生ごみの減量化、焼却の効率化及び堆肥としての資源化を目的としている旨を広報やHPで周知した。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	補助金の周知を図るため、4月に広報で案内を出したほか、HPに内容を掲載し情報提供を行っている。申請者の手間を少なくするため、申請書や実績報告書をHPからダウンロードできるようにしている。
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	補助金を交付することによって、処理機の導入を加速させることができた。、処理機を設置・利用することは、生ごみの減量化、焼却の効率化及び堆肥としての資源化へとつながる。これらは食の循環や環境への意識啓発となった。

成果及び今後の課題	当初予算が4月時点で底をついてしまったため、予算要求増額を視野に入れていきたい。今後も市民へ導入するメリットなどを示した周知を図るほか、市民の導入意向を伺いつつ、需要にあった補助金交付を行っていきたい。
担当課による評価結果	Ａ　:実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている

No.20

生活環境課 環境政策係

事業名	食品ロス削減計画策定						
実施時期	通年			実施対象	燕市民		
内容	国における食品ロスの削減の推進に関する基本的な方針（R2.3.31閣議決定）を基に、燕市において食品ロス削減推進計画の策定を目指す。食品ロスを削減していくために、市民各層がそれぞれの立場において主体的にこの課題に取り組み、市民全体として対応していくよう、食べ物を無駄にしない意識の醸成とその定着を図っていく。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R3年	目標値の根拠
		食品ロス削減計画策定	策定実績		目標	策定	策定の可否
					実績	策定	
					達成率	100%	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	食品ロス削減計画立案の中で、食品ロスは事業者及び消費者の双方から発生していることから各主体に求められる役割と行動を具体的に示している。これらの役割と行動は食育にも直結する内容（食の循環や環境を意識した食育の推進）である。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	食品ロス削減について子どもからお年寄りまでが「他人事」ではなく「我が事」として捉えられるよう、求められる役割と行動を計画（案）の中で示している。
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	市民が消費者として、食品ロスの削減に自発的に取り組んでいけるように、その重要性についての理解と関心の増進などのための教育や普及啓発に関連する取組を記載。

成果及び今後の課題	令和2年度に実施した市民アンケートの結果を踏まえ、庁内協議やパブリックコメントを実施しつつ、飲食店などの事業者へも削減に向けた情報提供や啓発活動を行う食品ロス削減推進計画を今年度中に策定いたしました。
担当課による評価結果	A ：実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている

No.21

社会教育課 公民館事業係

事業名	子ども料理教室（Let’s try！エコクッキング）						
実施時期	8月、12月			実施対象	燕地区小学生		
内容	子どもを対象とした料理教室。調理から後片付けまで「エコ」をテーマとした座学と調理実習を行う。 今年度はその場で会食せずに、作ったものを持ち帰る予定。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R3年	目標値の根拠
		定員数	1回の教室で対応できる人数	人	目標	32	使用する調理室器具で対応できる人数にあわせ定員数を算出
					実績	0	
					達成率	0%	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	－
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	－
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	－

成果及び今後の課題	新型コロナの影響で、講師側の了解を得られず、事業そのものを開催することができなかった。今後は、こういう事態になった場合に代替え事業が実施できるかも含めて検討したい。
担当課による評価結果	C ：食育の視点で事業を実施できなかった

No.22

社会教育課 公民館事業係

事業名	家庭教育推進事業（食育活動から展開する家庭教育講座らんらんランチ会）						
実施時期	6/2（水）、8/4（水）、10/6（水）、12/1（水）、3/2（水）			実施対象	乳幼児及び小学生とその保護者		
内容	・親子一緒に料理することでコミュニケーションを図り、料理の楽しさや食への関心を高めてもらう。家庭で楽しみながら伝えられる「食」の大切さを学ぶ。 ・料理を通じ子どもたちに思いやりの心や感謝の気持ち、および自立心を育て、子どもの健やかな心と体の育成を図る。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R3年	目標値の根拠
		定員数 各回：親子8組	1回で対応できる親子の数	組	目標	40	講師の人数に応じて対応できる限度数。 （3密を避けるため、昨年より人数減）
					実績	16	
					達成率	40%	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	今年度は絵本に出てくる料理を親子一緒に楽しみながら作ることにより、コミュニケーションを図りながら「食」の大切さを学んでもらえるよう計画・立案を行った。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	参加者の生活スタイルに支障がないように考慮し、各回とも水曜日午前開催とし参加募集に努めた。
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	旬の食材、地元の食材を用い親子で一緒に調理し、参加者全員で楽しく家庭教育講座を行った。

成果及び今後の課題	毎回、調理実習と子育てのポイントを絞り家庭教育支援ガイドブックに沿った内容での座学も取り入れており、アンケートでの満足度は高い結果がでている。 新型コロナの影響で1回中止となり、開催しても乳幼児の親が対象なため心配や不安などで申込を見合わせ、定員に満たないこともあった。新型コロナの拡大防止対策を行った上で、参加者の増加を図り食育を通じ家庭教育の重要性を学ぶ機会の普及に努めていきたい。
担当課による評価結果	B ：食育の視点を取り入れ事業を実施している

No.23

地域振興課 地域振興係

事業名	市民と事業者へワーク・ライフ・バランスの情報提供と啓発						
実施時期	6月・11月			実施対象	市民、市内在勤者、市内事業者		
内容	ワーク・ライフ・バランスを呼びかけ、家庭で食事をとる時間を十分確保してもらうことで、食を通じた家族のコミュニケーションの促進を図る。 ①年3回発行予定の「（仮称）男女共同参画だより」で、6月号のテーマの一つとしてワーク・ライフ・バランスと食育の関連性を取り上げ、意識啓発を図る。燕市ホームページへ掲載。 ②11月に事業者・住民を対象に「つばめ女性活躍・ダイバーシティ推進フォーラム2021」を開催予定。ワーク・ライフ・バランスの実現をテーマの一つとして講演会と事業所の取組事例発表を行う。仕事と家庭生活の両立の重要性を啓発する。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R3年	目標値の根拠
		ワーク・ライフ・バランスについての理解度	アンケート調査の回答割合	%	目標	90	昨年度の実績を考慮し、フォーラム参加者の90%がワーク・ライフ・バランスについて理解を深めるものとして算出
					実績	100	
					達成率	111%	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	6月の食育月間に合わせて、男女共同参画だよりのテーマに食育の視点を取り入れることを企画した。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	「女性活躍・ダイバーシティ推進フォーラム2021」は、対面形式とオンライン形式の併用で開催し、後日録画配信も行うことで、参加しやすい形態とした。
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	ワーク・ライフ・バランスと食育の関連性をテーマに取り上げた男女共同参画だよりを作成し、意識啓発に努めた。

成果及び今後の課題	男女共同参画だよりの発行や女性活躍・ダイバーシティ推進フォーラムの開催を通じて、ワーク・ライフ・バランスや男女共同参画推進の視点から、家庭における食育についての周知を行うことができた。今後も引き続きワーク・ライフ・バランスの重要性を多くの人に向けて啓発することで、食を通じたコミュニケーションの促進に繋げていく。
担当課による評価結果	A ：実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている

No.24

商工振興課　観光企画係

事業名	道の駅「国上」で提供する「おにぎり」の地産地消の推進						
実施時期	随時			実施対象	道の駅国上の来訪者		
内容	分水地区で収穫した米を100%使用した、道の駅手作りの「おにぎり」食べてもらうことで、地産地消を図り、燕市でとれたお米の美味しさを知ってもらう。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R3年	目標値の根拠
		燕市産おにぎり提供数	累計食数	食	目標	3531	目標値：前年度実績を元に算出
					実績	4768	
					達成率	135.0%	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	分水地区で収穫されたコシヒカリを使用したおにぎりを提供し、地産地消の推進に取り組んだ。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	気軽に立ち寄れる道の駅の食堂で実施しているため、老若男女問わず利用（提供）することが可能。
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	メニューや店内に産地名を表示しPRを行った。

成果及び今後の課題	コロナ禍で飲食店の利用者数が減少の傾向がある中、おにぎりの食数を順調に伸ばしており、コロナ禍以前の令和元年度の同時期の食数と比較しても、今年度の方が食数が多い。このまま順調に地産地消の食材を使用していることをPRしていきたい。 また、越後つばめの天神講の時期には、天神講のお菓子の販売も行い、市内の風習を食を通して伝える活動も行っている。
担当課による評価結果	Ａ　：実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている

No.25

防災課 防災対策係

事業名	備蓄品の整備						
実施時期	10月			実施対象	市民		
内容	各小学校区に複数ある避難所のうち1か所に備蓄品を整備。 平成30年度から、アレルギー対応非常食「梅がゆ」を備蓄。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R3年	目標値の根拠
		アレルギー対応非常食の備蓄数	今年度追加分を含めたアレルギー対応非常食の備蓄総数	食	目標	2,880	備蓄計画 平成30～令和4年度で合計3,640食備蓄予定
					実績	2,880	
					達成率	100%	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	食物アレルギー者等に対応した非常食を備蓄するよう考慮。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	―
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	食物アレルギー者等に対応した非常食を備蓄するよう考慮。

成果及び今後の課題	今後も備蓄計画に基づき備蓄していく。
担当課による評価結果	Ｂ　：食育の視点を取り入れ事業を実施している

No.26

防災課 防災対策係

事業名	防災出前講座による災害時の食事について知識の普及						
実施時期	通年			実施対象	市民		
内容	地域や家庭・事業所等における防災について、実体験を含めた講座を実施。 その中で、災害時の食事の在り方について正しい知識の普及を図る。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R3年	目標値の根拠
		防災出前講座実施回数	実施回数	回	目標	18	令和2年度実施回数18回
					実績	15	
					達成率	83%	

事業の実施状況		評価のポイント	実施内容を具体的に記入
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	地域や家庭・事業所等における防災をテーマに、実体験を含めた災害時の食事の紹介や食事支援で注意すべき事項の周知を企画。
	2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	まちづくり協議会・自治会・保健推進委員・老人会等、それぞれのコミュニティに応じて実施。
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	衛生面を最重視し、生き残るための食事について周知した。

成果及び今後の課題	様々なコミュニティから防災出前講座の依頼があり、毎年度、多くの市民に周知できている。 防災出前講座の活用の周知も含め、引き続き実施していく。
担当課による評価結果	B　:食育の視点を取り入れ事業を実施している

No.27

防災課 防災対策係

事業名	女性防災リーダーステップアップ講座						
実施時期	10月26日（火）　9時30分～11時30分			実施対象	女性防災リーダー		
内容	「災害時を想定した屋外での実践的なロープワークと災害食調理」を実施。 ※女性防災リーダーステップアップ講座・・・これまでの「女性防災リーダー養成講座」を受講し、「女性防災リーダー会」に入会されている方々を対象に、さらなる防災知識の習得を目的に開催する講座。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R3年	目標値の根拠
		女性防災リーダーステップアップ講座受講者数（上記テーマ時）	受講者数	人	目標	25	女性防災リーダーステップアップ講座受講者数実績（第1回23人）
					実績	19	
					達成率	76%	

事業の実施状況		評価のポイント	実施内容を具体的に記入
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	「災害時を想定した実践的な災害食調理」をテーマに、災害時における温食の大切さなどを伝えるための講座を企画。
	2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	受講者と調整のうえ日程を決定し実施。
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	「災害時を想定した実践的な災害食調理」をテーマに、災害時における温食の大切さなどを伝えるための講座を実施。

成果及び今後の課題	女性防災リーダーからは多くの防災知識を習得していただいている。 引き続き、災害時における食事の大切なポイントや日頃からの備えなどを含め、様々な防災知識の普及に努める。
担当課による評価結果	B　:食育の視点を取り入れ事業を実施している